

## **NetCommons : インターネット時代のネット教育・市民活動支援システム**

- 国立情報学研究所がモニター100団体を募集 -

国立情報学研究所の新井紀子助教授と(株)NTT データポケットが、教員グループや市民団体等がインターネットの上で、安全かつ簡単に情報共有することを支援するためのシステム(NetCommons)を共同開発した。これを使えば、コミュニケーション支援型のeラーニングがたやすく実施できる。加えて、プログラム言語やインターネットの仕組み、セキュリティについての専門知識を持たない市民団体でも、安全かつクオリティの高い情報共有サイトを運営することが可能となる。

国立情報学研究所では、NetCommonsの有用性を高め、かつ一般の団体のネット上でのコミュニティ形成能力の強化に貢献するため、モニターとして、NetCommonsの利用を希望する団体を4月から募集し、公共性の高い非営利団体100団体を選定し、NetCommonsを提供し、実際に利用してもらう。同時に、この100団体のための情報共有サイトを開設し、NetCommonsの円滑な導入とその活用のための支援を行う予定である。

NetCommonsは2002年5月から、大学の研究者・中学高校の教員らが中心になって、全国の小中高生にカリキュラムによらない学びの場を提供する「e-教室」が前身である。e-教室は、現在海外からの参加者も含め約250名の子どもたちがインターネット上で、学びのコミュニティを形成しており、本システムが遠隔教育のインフラとしても有効であることが示された。現在は、国立大学図書館協議会、神奈川ゆめコープ、一橋大学経済研究会、WILL(日本商工会議所マスターからなる情報通信技術指導者団体)が試験的に利用している。この4団体のバラエティーの広さは、NetCommonsが、他の遠隔教育・情報共有システムと異なり、導入する団体の性質や目的を選ばないことを示している。NetCommonsでは、参加者がコミュニケーションを取ること自体が新たなコンテンツを自動的に創造してゆく。そのため、小学校の総合学習から専門技術者や研究者のコミュニティ支援や大学院遠隔教育まで幅広く利用することができる。また、すでにネット上に存在しているフリーのデジタルコンテンツや関連サイトが発信する情報を効率良く、簡単に活用するための仕組みが随所に取り入れられている。

現在、多くの市民団体がホームページを運営し、情報を社会に発信している。しかし、画像・動画・音声などあらゆるタイプの情報を、会員あるいは、特定の会員の間だけで、安全に共有するには技術的なハードルが高かった。また、Webページをデザインするセンスや技術も必要だった。

NetCommonsには、OS、Websサーバ、データベース、アプリケーションサーバ(認証システム・セッション管理等を含む)情報共有用の各種アプリケーションがひとつのパッケージとして統合されている。利用団体はこのパッケージをインストールすることで、すぐに、安全に情報をやりとりできる会員制情報共有サイトを開設することができる。コミュニティ支援システム、とくに教育コミュニティを支援するシステムの開発と導入において、日本は欧米に遅れをとった。この分野で外国産システムをしのぐクオリティを持つ純国産システムが開発されたことは意義深い。

NetCommonsが提供する情報共有アプリケーションには、さまざまな種類の掲示板と検索機能のほか、アンケート、チャット、資料室、関連サイトの画面取り込み、ファイル共有などの機能が含まれている。これらのアプリケーションを専門的な知識なく、直感的にすぐに利用でき、レイアウトも自由自在に変更できるのが、本システムの最大の利点である。

## プラットフォームを構成する主な機能

